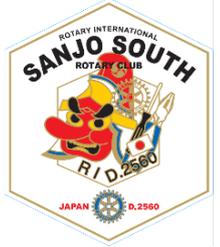




三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2021-22 クラブテーマ **継続こそ前進。**

2022. 3. 14

「会員卓話」

No.2405 No.21



みんなの豊かになろう

会長挨拶

三条南ロータリークラブ
会長

平松 修之

こんにちは。だいぶ暖かくなってきました。こうなると気になるのが花粉です。今日は雨なので影響も少ないと思いますが…。私はハウスタストや稲藁焼きには人一倍反応しますが、有難いことに花粉反応は少ないので、さほど心配はしていません。花粉症の方々には本当に気の毒な時期がスタートしました。ちなみに私は現在、耳、鼻の調子の良くない最悪の状態でしたので、ついでにアレルギー反応のテストもして貰いました。その結果、一番の強い原因はなんと“蛾”ということでした。“蛾”と言われても…何をどうしたらいいのって感じですけどね…。

花粉症の話をしします。原因はスギ花粉、ヒノキ花粉、ブタクサ花粉など様々ありますが、春先だけでなく一年中飛散していることは皆さんご存知だと思います。主に関東ではスギ花粉は2～4月、ヒノキ花粉は3～4月、ブタクサ花粉は8～9月頃で、5～6月にかけてはイネ科の花粉も飛んでいます。この花粉症の発祥の地はイギリスとされているようです。軍艦を建造するための場所を確保するために森林を伐採していましたが、そこに生えた雑草が花粉症のアレルゲンを生産させる植物だったそうです。花粉症に悩まされる人は世界中にいて、アメリカ人はブタクサ花粉に、スカンジナビア半島の人達はカバノキの花粉に悩まされているそうです。

日本でスギ花粉がはじめて確認されたのは、東京オリンピックが開催された昭和39年で、栃木県の日光においてでした。終戦後、都市再建の為に建築用材として、国策によって全国各地にスギが植えられました。しかしその後、安価な外国産の木材が輸入されるようになったことが原因で、国産スギの価格は下落してしまいました。そのため、仕方なく放置されたスギが花粉をまき散らすようになったそうです。

なお、スギは樹齢30年ころから花粉をまき散らすようですが、なんと樹齢50年まではそれを止めないそうです。日本人が花粉症に悩まされる日々はまだまだ続くようです。

今日はホワイトデーです。バレンタインデーにチョコレートを贈られた男性が、女性へお返しのプレゼントをする日とされています。ちなみに、世界的にホワイトデーがあるのはごくごく一部の地域だけだそうで、日本では福岡県のとあるお菓子屋さんが発案し開始したことが全国的に広く知れ渡るようになったらしいです。義理チョコ、マジチョコ等々…貰った人はちゃんとお返ししましょうね！

その他、3月14日ということで、「円周率の日」でもあります。円周率の近似値はギリシャ語で「π」と表現することからお菓子の不二家は「不二家パイの日」という記念日に制定しているそうです。商魂たくましいです！

今日はこれで挨拶に致します。

◆本日の出席：39名中28名

◆通算出席率：79.63%

◆幹事報告 木村 譲 幹事

◇R1第2560地区高尾茂典ガバナー、新保清久R財団委員長より

「ウクライナ支援にDDF寄付に関するご報告」

ロシアのウクライナ侵攻による被害者救援のためジョン・ジャーム財団管理委員長と三木明財団管理委員からロータリー災害救援基金への寄付依頼があり、当地区は、地区財団活動資金(DDF)から3万ドルを同基金に寄付いたしました。

ウクライナ国内や周辺のR1地区は、災害救援基金の補助金を受けられます。これらの補助金は迅速に手続きされて、水、食料、シェルター、医療品、衣服といった救援物資を含め、難民や被災者の支援に利用されます。

●ロータリー財団を通じた支援は災害救援基金が主な窓口となりますが、ロータリークラブとローターアクトクラブもウクライナでの人道的危機に対して独自の支援を行うことが奨励されています。

●ウクライナでの救援活動を支援するための災害救援基金へのご寄付を、2022年4月30日まで受け付けています。



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

国際ロータリー会長 シェカール メータ (インド)
第2560地区ガバナー 高尾 茂典 (新潟中央)
第4分区分ガバナー補佐 外山 晴一 (三条北)
会長 平松 修之
幹事 木村 譲
SAA 永井 篤利

事務局
〒955-8666 三条市町2-5-10
三条信用金庫本店内
TEL0256-35-3477
FAX0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL https://www.sanjo-minami.jp

ニコニコボックス

3/14 11,000円 今年度累計 243,906円

平松会長「今年度最初の会員卓話となりました。南クラブのマドンナ！ 桑原さんよろしくお願ひします」

木村幹事「桑原さん、本日は宜しくお願ひします」

西瀧君「寒さもようやく和らいできました。大リーグの労使交渉もまとまり、一ヶ月遅れで開幕できそうです。ウクライナにも平和が訪れることを祈ります」

佐藤君「久しぶりの会員卓話、桑原さん、楽しみにしていました」

西巻君「桑原さん、本日は卓話楽しみにしております。BOXに協力して」

野崎君「桑原さん、卓話楽しみにしております。BOXに協力致します」

荒澤君、田代君、銅冶君「桑原さんの卓話楽しみしています」

吉沢君「桑原さん、卓話宜しくお願ひ致します」

坂井君「桑原さん、卓話楽しみにしております。BOX 係でした。ご協力ありがとうございました」

会員卓話

桑原 朋子 会員

「日本人の有給取得と
コロナ禍における
旅行環境の変化」



皆様は旅の意義は何だとお考えでしょうか。知らない世界を知る事、温泉につかり美味しいものを食ベリフレッシュすること、現地の人と交流すること、自分を見つめ直すことなど様々だと思いますが、コロナ禍においては、何かと制限が多くストレスの多い生活を送る中、「五感を回復させる機会、五感を呼び覚ます機会」として特に重要視されています。

また、アイデアが生まれやすいタイミングを「4B」とまとめることができますが、①就寝中 (BED)、②飲酒中 (BAR)、③入浴中 (BATHROOM)、④移動中 (BAS)、この4つは旅行中にすべて体験できるものであります。例えば、社員旅行の

旅の意義

■五感の回復、五感を呼び覚ます
→コロナ禍により一層重要視されている

■アイデアが生まれるタイミング(4B)

- ①Bed(就寝中)
- ②Bar(飲酒中)
- ③Bathroom(入浴中)
- ④Bas(移動中)

→旅行中にすべて体験できる



主な目的は親睦を深めることかと思いますが、旅行から帰ってきたら、仕事における新しいアイデアが生まれたといったことを実際に経験している方も

いらっしゃるのではないのでしょうか。

2020年の世界幸福度ランキングによると、上位はヨーロッパの国々、特に北欧諸国が常連です。ご存じの通り、日本は経済大国で社会福祉も充実しているにも関わらず万年下位で、2020年は56位でした。ランキングの指標には、GDP、健康寿命などが含まれますが、日本は、人生の選択の自由度、寛容さ(寄付をしたかなど)が他国に比べ低いとされています。日本では休まずに働くことが美德とされる雰囲気があり、自由に使える時間が限られていることが人生の選択の自由度を下げていると言われています。

日本の有給取得率はどのような状況でしょうか。コロナ禍前の2019年のデータとなりますが、日本の取得率は50%、

日本人がいかにか休みを取っていないかが分かります。取得率100%のブラジル、スペインはお国柄休暇を取得しやすいイメージがありますが、G7加盟国のフランスは93%、イタリアは、75%アメリカは71%。また、イギリスは有給支給日数が30日のうち取得率は100%、ドイツは28日のうち取得率は89%と、先進国はどれも取得率が高くなっています。ちなみに、2020年世界競争力ランキングで1位だったシンガポールは取得率100%です。

世界各国の有給休暇取得状況



出典: エクスパディア 有給休暇取得率比較調査2019

「短い休暇を複数回取得している」と回答した人の割合

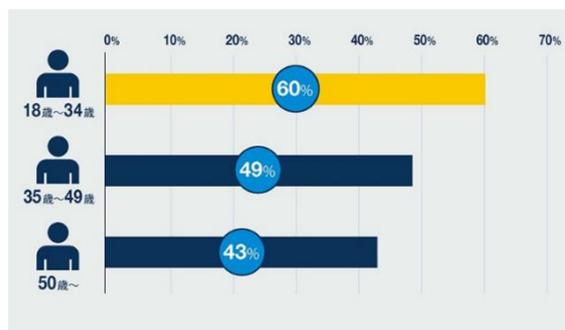


出典: エクスパディア 有給休暇取得率比較調査2019

短い休暇を複数回取得していると回答した人の割合です。欧米人は夏休みに1ヶ月の長期バカンスをとる人が多く、しっかり充電し仕事に戻ります。日本人は「旅下手」と言われますが、休みを取るのが下手で、短期詰め込み型の旅行が多いことが理由とされています。

日本人が休みを取らない理由の1位は、「緊急時のために取っておく」ですが、3位の「仕事をする気がないと思われたくない」では、休まず働くことが美德とされる文化が根付いていることが分かります。

休暇を取ると仕事のモチベーションが上がる人の割合



「休暇を取ると仕事のモチベーションが上がる人の割合」の年代別データです。若年層ほど割合が高いことが分かります。皆様の職場ではいかがでしょうか。

有給休暇取得によるメリット

- ①モチベーションや生産性の向上
- ②離職率低下による就職希望者の増加

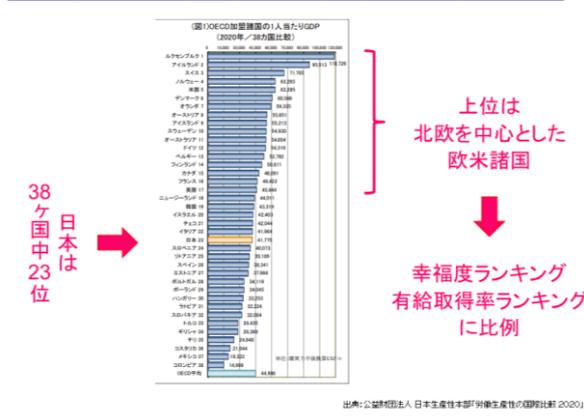


有給取得のメリットは大きく2つあります。1つ目はモチベーションや生産性の向上です。働き詰めで心身ともに疲労し切った状態では、クリエイティブな発想が生まれることはなく、仕事をやればやるほどモチベーションや生産性が下がってしまう可能性があります。十分な休息によりモチベーションや生産性の向上を期待することができ、クリエイティブな発想を持って、仕事に取り組むことが可能です。また、モチベーションや生産性が向上することによって、自然と会社の業績をアップさせることもできます。さきほどのデータにより若年層ほど休暇取得によりモチベーションが上がる人が多いことが分かりましたが、かわいい子には旅をさせよ、ではありませんが、若年層ほど生活圏外に飛び出し、感性を磨く機会を得るべきだと思っています。

有給取得のメリットの2つ目は離職率低下による就職希望者の増加です。休みが少ないという理由で離職をするケースは、多く見受けられます。求人応募者にとって、長く働き続けられるかどうかは、企業を判断するための重要な条件となりますので、離職率の低下は、就職希望者の増加にも繋がります。

2020年の世界生産性ランキングです。昨今、日

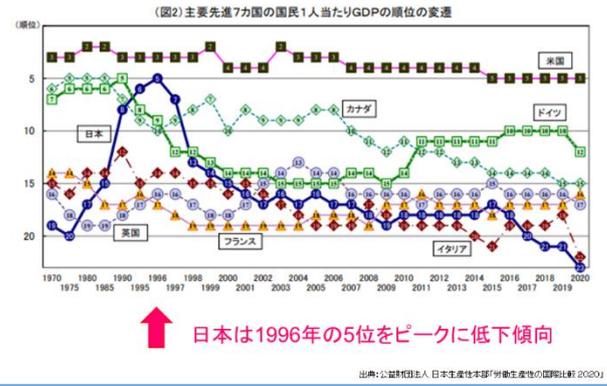
2020年OECD加盟国の1人当たりのGDPランキング



本の世界競争力の低下が深刻な問題として取り上げられていますが、2020年の日本の生産性ランキングは23位、主要先進7カ国の中では最下位でした。上位国の顔ぶれを見ると、幸福度、有給取得率ランキングに比例していることが分かります。これは偶然ではないように思います。

主要先進7カ国の過去50年の生産性の移り変わりです。日本は1996年の5位をピークに大き

主要先進7カ国の国民1人当たりのGDP順位の変遷



く低下しています。一方アメリカは5位以上を、ドイツをはじめとしたヨーロッパ諸国は一定の順位をキープしています。世界競争力の低下には様々な要因があると思いますが、日本の技術力、研究開発力そのものが落ちているという訳ではなく、問題はそれを活かしてきれていないこととされています。創造的な発想を生む環境が整っていないこと、閉鎖的なネットワークで外国企業とつながる機会がなくインパクトのあるイノベーションを起こせていないことなどが大きな要因かも知れません。

日本人がチャンスはあるのに世界と繋がってないことを証明するデータがあります。ビザなしで渡航可能な国数の多さを示す世界のパスポートの強さランキングで、日本は191カ国で堂々1位です。日本に対する世界の信頼度の高さの表れで、各国が敷居を低くして温かく迎え入れてくれると言い換えることもできます。しかし、日本人のパスポート保有率は23.7%、わずか4人にひとりというのが現状です。英語圏のアメリカは42%、カナダは66%、イギリスは76%、日本人の保有率が低い事が分かります。日本人は海外に出やすい環境が整っているにも関わらず、その機会を活かしてきれていない、もったいない状況にあります。

皆様の中には旅が趣味の方も多くいらっしゃると思いますが、世界の富裕層は理想のライフスタイルを体現するために、意識的に旅に出て、日頃の疲れを癒し、非日常の世界から得たヒントをビジネスや社会に還元しています。旅は自己投資、エネルギーチャージの機会であり、ビジネスのアイデアを創出するための大切な時間です。世界の富裕層の最近の旅行傾向をご紹介します。ぜひ経営者の皆様から率先して休みを取得し、意識的に旅に出かけて頂けたらと思います。

2022年のトレンドをご紹介します。1つ目は、ワーケーション&プレジャーです。皆様も最近よく耳にされるワードかと思いますが、政府は今、ワーケーション環境の整備にかなりの予算を投じています。休暇型は社内制度を整備する必要がありますが、業務型の合宿型であれば、気軽に取り入れられるかもしれません。また、プレジャーは出張先で滞在を延長するなどして余暇を楽しむ形態を言いますが、こちらは経営者の皆様には取り入れやすいかもしれません。業界により温度差はあるかと思いますが、コロナ禍によりリモートワークができる環境が整い、場所を選ばない働き方が生まれつつあります。旅や日常と違う空間で仕事をする事は、新たな交流の機会を作り新しいアイデアを生む、自由度の高い、幸福な生き方のきっかけとなると思います。

今年は3連休が9回もある当たり年と言われています。連休+αでぜひ感染症対策を万全にお出かけ頂けたらと思います。1日も早く自由に海外へ渡航できる日が来ることを願っております。ご清聴ありがとうございました。